

日々研鑽

～職員が取得している資格を紹介します～



当院の職員は、患者さんにより質の高い医療を提供するために、入職後も日々研鑽を続け、それぞれ特定分野において高度な知識と技術、経験を積むことによって得られる様々な資格を取得しています。この連載では、資格を得るための条件や流れ、資格取得後の働き方などについてご紹介していきます。

診療放射線技師の認定資格

検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師

今回はマンモグラフィに関する放射線技師の認定資格についてお話させていただきます。マンモグラフィは乳房のレントゲン検査です。乳腺を引っ張り出し、専用の装置で挟んで撮影します。しかし、ただ挟めばいいというものではありません。患者さんそれぞれで大きさや形が違いますので、撮影する技師が正しいやり方をきちんと理解していないと、技師によって異なる画像になってしまいます。つまり、A技師が撮影したら病気が写ったのに、B技師が撮影した時は病気が写らなかった、といったことが起きてしまう可能性があるのです。



どの施設でいつ誰が撮影しても同じような写真になり、正しく診断されることが重要です。マンモグラフィを担当する技師の多くが今回お話しする認定資格を取得することによって、より質の高い検査をお届けすることが可能になります。

どういった資格か

診療放射線技師向けの認定資格です。マンモグラフィの知識と撮影技術の向上を図り、乳がん検診の質を向上させることを目的としています。『日本乳がん検診精度管理中央機構(精中機構)』が認定したプログラムの講習会を受講し、その講習会の中で行われる試験に合格すると得られます。講習会は1999年から始まり、現在は全国的に開催されています。当院でも7名の女性放射線技師がこの資格を持っています。取得後も5年ごとに更新講習会があり、更新試験で合格点を取れないと資格失効となる場合があります。

～日本乳がん検診精度管理中央機構とは～

画像を用いた乳がん検診の精度管理について検討し、医師・放射線技師・臨床検査技師・看護師や検診実施機関・精密検査実施機関、一般住民や患者団体に対して、教育研修・評価認定事業、検診啓発事業、患者団体との連携等の事業を全国規模で行なうと共に、本邦内外における精度の高い画像を用いた乳がん検診の普及、ひいては乳癌死亡数低下のために寄与することを目的とするNPO 団体。(注1)

講習会の内容

講習会ではまず講義・実習を受けます(更新講習会では講義のみ)。マンモグラフィを撮影するために必要な知識・実技を深く学びます。新しい技術などがあれば取り上げてもらえます。自施設でも新たに導入したり、検査方法見直しのきっかけになることもあります。講義・実習の他に、『筆記試験』『読影試験』『臨床画像評価』があり、これらの合計点数で合否が決まります。

筆記試験

こちらはマンモグラフィ全般・乳がんに関する知識が幅広く出題されます。基本的に講習会での内容が出題されますが、事前に勉強し、知識を定着しておかないと合格点を取ることは難しいです。

～講義と筆記試験の内容～

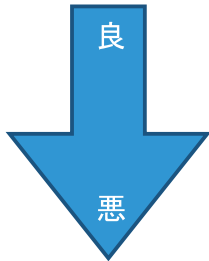
- ・乳がんの病理
- ・乳がんの疫学
- ・マンモグラフィに使うX線の特徴
- ・撮影技術(ポジショニング)
- ・装置の特徴や品質管理
- ・カテゴリー分類(読影法) など

読影試験

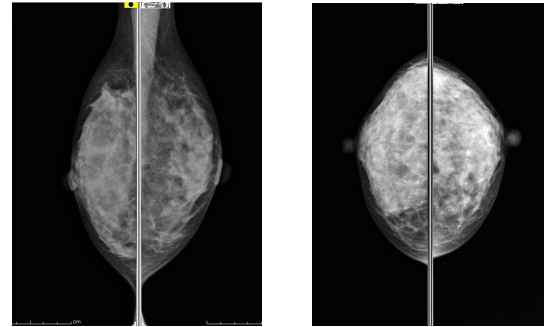
40人分のマンモグラフィについて、カテゴリー分類(※下記参照)で解答します。全部で200枚ほどの画像になります。試験時間も少ないので素早く正確に解答しなければなりません。事前に勉強しておくことと、普段から自分の撮影した画像について正しく読影する習慣をつけておかないと合格点を取ることは難しいです。普段の検査では、異常の程度により追加撮影するか判断する場合があります。撮影する技師にとって正確な読影ができることは重要なのです。

～カテゴリー分類とは～

乳腺の病変について5段階で評価します。



- カテゴリー1: 異常なし
- カテゴリー2: 良性
- カテゴリー3: 良性しかし悪性を否定できず
- カテゴリー4: 悪性の疑い
- カテゴリー5: 悪性



実際のマンモグラフィ:

患者さんひとりにつき最大4枚の画像を撮影します。

臨床画像評価

自分が実際に撮影した患者さんの画像を講習会に持参し、画質・ポジショニング(位置合わせ)などについて評価され点数がつきます。特にポジショニングについては、乳房の組織がしっかり撮影範囲に収まっているか、シワが寄っていないかなど、かなり厳しく指摘されることもあり、普段から良い写真を撮るよう心がけておかないと良い点数は取れません。自施設の画像を第三者に評価してもらうことはとても良い機会です。自分たちだけでは気づきにくい改善点について指摘してもらえるからです。

まとめ

乳がん罹患率は年々増加の一途をたどり、女性の9人に1人が乳がんになると言われています(2017年データより)(注2)。乳がん以外のがんは60代位から年齢とともに罹患率が上昇していきませんが、乳がんでは40代と60代で罹患のピークがあるのが特徴です。特に40代では仕事や子育てに忙しい年齢であり、乳がんを発症すると治療との両立が大変です。そこで早期発見することが重要です。乳がんは早期に発見し治療を行えば、予後は良好でその後の生活の質の維持向上も期待できます。40歳以上では、2年に1回のマンモグラフィ検診が推奨されています。40歳以上でマンモグラフィ検診をまだやったことのない方は、ぜひ一度検診を受けていただくことをお勧めします。年齢に応じて、自治体などから割引券や無料券などが配布されると思いますので確認してみてください。



当院のマンモグラフィ装置



←当院のマンモグラフィ施設画像認定証

～マンモグラフィ検診施設画像認定について～

文中で紹介した精中機構が実施している、病院ごとの評価認定です。定められた審査をクリアすることで得られ、適切で質の高い検査を実施していることの証になります。当院でもモニター診断向けの認定をつい先日取得しました。以前はフィルム診断でしたが、今はネットワークにより端末があれば院内どこでも画像を確認することができます。

引用

注1: 日本乳がん検診精度管理中央機構, https://www.qabcs.or.jp/about/info_teikan.html, (参照 2021-08-27)

注2: 国立がん研究センターがん情報サービス, <https://ganjoho.jp>, (参照 2021-08-17)

(文責: 診療放射線科
主任 佐藤 友美子)